

2年生の今

歯学科2年 割田 悠子

私たち2年生は、編入生5人を仲間に入れて歯学部生としての新たなスタートを切った。初めは編入生との間に見えない壁があったが、編入生歓迎会（という名の飲み会）を経て打ち解け、5人とも今ではなくてはならない大切なクラスメートである。

1年生の時と比べて大きく変わったことは、まず、講義を受ける場所が五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに移ったことである。それと共に講義内容も教養科目から専門科目へと変わった。5月に行われた生理学の試験前は、専門科目初の試験ということもあり皆が必至だった。1年生の時はあまり話すことがなかった者同士が男女問わず教え合う光景も見られ、頼もしく感じた。今、一部の科目では夏休み前の中間試験の時期に入り、

毎週のように試験がある。それに加え今年度から新カリキュラムとなり、歯学スタディ・スキルズⅡという科目が増え、現代社会と歯科医療についてのレポート提出も迫っている。まだ基礎を学んでいる段階の2年生にとって難しいテーマではあるが、歯科医師を目指す私たちが目を背けてはいけな課題が散在していることを知る良い機会となっている。ただ、試験勉強とレポートを同時進行でやらなければならない、正直逃げ出したい。しかし、白衣や緑衣をまとった先輩方のたくましい姿を目にするたび、皆が乗り越えてきた道なのだから、と自分を奮い立たせている。

余談ではあるが、旭町キャンパスへ移ってきて変わったことは他にもある。それは、五十嵐キャンパスにいた頃は当たり前のように利用していた



編入生歓迎会

学食がないことだ。そのため、お弁当を作ってくる人や、ローソン通いに徹する人など様々いる。恥ずかしながら、今のところ私は後者なので、ローソンには大変お世話になっている。勉強の合間に小腹がすいた時、すぐ近くにコンビニがあるのは学生にとって心強い。

2年生になり後輩ができたことで、部活での立ち位置も大きく変わった。教えてもらうばかりであった私たちが今度は教える側にもまわったり、

新入生歓迎会の幹事を担当したり、視野が広がったと同時に先輩方の偉大さを再認識した。実習などで忙しいにも関わらず、一切疲れを見せず集中して部活に励んでいる先輩の姿には、いつも刺激を受ける。勉強についてもアドバイスをくださり、とても頼りがいのある先輩ばかりである。

これからも、恵まれた環境で学んでいることを忘れずに精進していきたいと思う。



二年生の今

歯学科2年 立石光星

ついこの間入学したかと思ったら、歯科医師になるという自覚も薄いまま、いつの間にか二年生になってキャンパスも病院がある旭町に移ってありました。白衣や緑衣を着て、実習に向かう先輩方、急に始まった専門性の高い科目、迫り来る課題と試験。焦りを感じると共に、しかしそんな毎日をどこか楽しいと思う自分が確かにいます。そんな自分を裏切らないよう、しっかりとした知識をつけたいです。

ですが実は、そんな知識が自分の前には壁となって立ちはだかっているように感じます。歯科理工、微生物、生理学、生化学、解剖学。専門的な知識をつけるための下地となる基礎的な内容は覚えなければいけない情報の海。実習は楽しそうだけど、座学なんて本当に必要？…そんな風に思わず現実逃避をしたくなります。しかし、授業の

中でたまに聞こえて来る国家試験とCBTという言葉が、いやでも将来必要な知識なのだと教えてきます。そうでなくとも、たった数年後、先輩たちと同じように実習が始まった時、知識がなかった所為で、治療を間違える、そんなことがあってはならないのは分かりきっています。それだけの責任が必要なのです。今学んでいる内容は、絶対に数年後、いや一生使うことになるのです。こんな風に考えるということは、少しは自分の中に将来歯科医師免許を持つものとしての自覚が芽生えてきたと思ってもいいのでしょうか。

個人的な話はこの辺にして、二年生の近況報告をしてみたいと思います。ふと思ったのは部活でのポスト。多くの人が、去年お客さん待遇だった部活で、今は、幹部見習いとして仕事をして（させられて？教えられて？）いるように見えます。



寄付金お願いハガキの宛名書きが一番辛そうです。お客さんではない中で1番の下っ端ですから、これも仕方ないのかもしれませんが。しかし部活を通しての先生や先輩方との交流は、社会的だけでなく勉学的に欠かせないものですし、将来部活を引っ張る責任もあります。みんな頑張り。さて他に言いたいことと言えば、おそらく、大学生になって初めて受けるであろう、口頭試問という形式の試験でしょうか。大学で初めてレポートを

経験した人は去年沢山いたでしょうが、今回は口頭試問です。優しいことに合格するまで何度でも、挑戦できるものだったので、無事全員が合格できたようです。初めての口頭試問で、各自どう思ったのでしょうか。私は楽しかったです。

初めてと責任と自覚と。いろいろなことに揺さぶられる毎日ですが、おそらく二年生皆、少なくとも歯学部に来たんだという実感と共に楽しく過ごしていると思います。



3年生の今

歯学科3年 稲月優世

私たち51期生が入学してから早くも2年が経って3年生となり、あっという間に3か月が過ぎました。1年生だった当時は、7月ともなると五十嵐キャンパスでの大学生活にも慣れ、テストの準備をしながら初めてのオールデンタルを心待ちにしていた頃でしょうか。「旭町に通う先輩方の勉強は大変そう」と思っていたのも束の間、気づけば自分が解剖学実習をしている学年です。

新潟大学歯学部歯学科の3年生の科目と言えばやはり人体解剖学実習でしょうか。私がこの歯学部ニュースの原稿を書いている時点で解剖学実習は全4回の口頭試問を終え、残すところあと1回となりました。今でも1回目の実習の緊張感は強烈に覚えています。それまで漠然としていた緊張が、一礼して解剖学実習室に入った瞬間にピンと張り詰めたものに変わるのがわかりました。火曜

日と木曜日の週2回の解剖学実習はとても密度の濃い、充実した時間だったと思います。それと同時に、解剖学に関しては2年生の講義で学習済みですが、この教科書で学んだ2次元的な知識を実際の御遺体を前にして3次元的な知識へと昇華させていくこと、知識という点を線でつなげていくことの難しさを日々感じていました。解剖学実習は先輩方から聞いていた通り、体力的にも精神的にもハードなものでした。しかし、その分歯学科3年生というクラスが一体となってこの実習に真面目に取り組み、将来歯科医師という医療人になる学生として大きく成長できたのではないかと思います。このように実習を行い、成長できたのはインストラクターをしてくださった先生方、そして御献体に協力してくださった方やそのご遺族のおかげです。この感謝の気持ちを忘れずにこれが



らも学習を続けるとともに、将来必ずこの経験・知識を生かしていくことが何よりの恩返しとなるのではないかと私は感じています。

解剖学をはじめとした授業に毎日取り組むと同時に、部活動の方もだんだんと忙しさを増してきました。弓道部は後輩もどんどん増え、オールデントルを終えるといよいよ3年生が幹部学年とな

ります。今まで以上に勉学と部活動の両立を意識して時には息抜きしつつ、協力して部活動の運営ができればと思います。

医療を学ぶ学生として大きな成長のきっかけとなる3年生、まだまだ学ぶべきことはたくさん残っていますが徐々に将来を見据えて1つ1つ丁寧に勉学に励んでいきたいと思っています。



3年生になって

歯学科3年 尾崎紀子

2年生の頃は「来年から解剖実習かぁ。」と、3年生になったら始まる実習のことで不安を抱えていました。しかし、この原稿が歯学部ニュースに掲載するには実習は無事終わっていることでしょう。ここでは‘歯学部生の今’について語るのですが、序盤では3年生前期の中で印象深かった解剖実習について語りたと思います。解剖実習は4～5人が一組になって実習を行います。そのため自分の知識が足りなければ他の班員に迷惑をかけてしまいます。従って予習が大切で、自然と家庭学習の時間が増え、勉強の習慣が身につきました。実習開始当初はピンセットの持ち方でさえ先生から注意を受けたことを覚えています。第1回目の口頭試問では緊張による手の震えからピンセットが尋常ではない程、動きました。実習が終盤に差し掛かるとある程度の緊張はありましたが、程よい緊張の中、実習を行うことができました。今では最終口頭試問が近づいていながらも、この原稿を書き上げることができる程、微小では

ありますが、心に余裕ができました。解剖実習の良いところは今まで2次元で学んでいた内容を3次元で、さらに間近で学べるところです。これにより立体的に覚えることができ、また実習中に起きたエピソードと共に覚えることができると感じました。

学ぶことが増えると、今まで点として見えていたものが線として見え始めます。ある分野を勉強していく上で、違う分野の知識が必要になった時に2つの分野の間に繋がりが生まれます。その繋がりを増やしていくことで暗記に頼り切らない勉強ができるのではないかと思います。一方で学ぶことが増えると、それだけ勉強時間も長くなります。その中で休息をどれだけ上手に取り入れるかということがこれから学年を上がるごとに大切になっていくのではないのでしょうか。私は3年生の頃から休息の取り方を覚えておくと良いと思います。なぜなら今のうちから休息の取り方を覚えなければ、忙しい学年になった時に気分転換した



くても勉強しなければ不安で休憩できないことになるからです。確かにテストが近い時に遊びに行ったとしても罪悪感から思い切り遊べないと思うかもしれません。しかし遊びに行かないにしても少し勉強から離れる時間がなければ、テスト期間が来るたびに体力的にも精神的にも疲弊してしまうと感じました。

私が入部している部活動では3年生が幹部になります。従って私たちが後輩を引っ張っていかなければならないという責任感が少しずつ芽生え始

めました。自分が幹部になってようやく先輩方の大変さを本当の意味で知ることができると思います。幹部になることでやらなければならないことが増えますが、部員と共に乗り越えていきたいと思っています。

最後になりましたが、これからもっと勉強、部活動共に忙しくなっていくと思いますが、毎日を充実させながら残りの3年間過ごしていきたいです。



折り返しを迎えて

歯学科4年 横 沢 明 李

6年間を折り返し、4年生になった私たち歯学科50期生。思い返せばあっという間の3年間でした。のびのびとキャンパスライフを満喫していた1年生。専門科目に目を輝かせていたけれど、1か月後には死んだ目をしていた2年生。解剖実習の前期、テスト山盛りで記憶がない後期を過ごした3年生。そして現在4年生。いい意味でも悪い意味でも大学生活に慣れました。学年的には中堅どころ、部活でも幹部学年と、要になる1年です。勉強はもちろん、それ以外でも部活や県人会などたくさんの事に追われ、めまぐるしい日々を過ごしています。週2回は、朝から白衣を着て気が付けばもう夕方。「どうせ学校に着いたらすぐ着替えてマスクもするんだから、ジャージすっぴんでいいじゃん！」なんて言っていますが、それを実践している人は今のところまだいません。まだそ

こは守りたい4年生女子たちなのでした（笑）講義を聞いている90分は長い（たまに辛い）と感じていましたが、実習の90分は一瞬。今まで講義で学んできた一つ一つの知識がつながって線になって、形になってきている感覚に毎回わくわくしています。同時に自分の知識の浅さ、今までの講義の重要性や必要性を強く感じます。

今年から冠ブリッジ実習では6年生が数人ずつ来てくれています。気さくに話しかけてくれ、先生に聞くのが恥ずかしいような質問にも答えてくれ安心感があります。実習書や教科書には載っていないコツを教えてくださいがなよりの学びです。6年生は、知識、臨床的な手技、人との接し方など全てにおいて「先輩」というより「歯医者」のようでした。私たちのここからの半分の時間は、よりスピードアップして「学生」から「歯



医者」になっていくのかもしれませんが。

この学年には、ひとつ問題があります。実習ではたくさんの歯科材料や器具を使っていますが、私たちの学年は先生も驚くほど材料を使う学年なのです。クラス購入した材料をすぐに使い切ってしまう、その度に追加に追加を重ね集金しています。実際に臨床の現場で使用されているものと同じものを使うため、材料のお値段もお高め。それに加えて、実習書代、外注代、追い打ちをかけるB型肝炎ワクチン代…春から猛スピードでお金が飛んでいっています。しかし、この金欠があった

からこそ、運動会で「エグザバイトを買う」べく、総合2位になれたのかもしれませんが。これは凄まじいモチベーションです。ただこれは言いたい、みなさん材料は大切に使いましょうね。幹事からの切実なお願いです。(笑)

こんな4年生ですが、たくさんの先生方にご迷惑とご心配をかけ、そして愛情を受けながら日々過ごしています。このクラスの取柄である「元気」と「仲の良さ」を大切にしながら、これからの残り2年と半年を全員で駆け抜けていきます。



歯学部生の今

歯学科4年 酒井 佑 樹

私たち歯学科50期生はこの春見事に4年生になることができ、ついに折り返し地点に立つことになりました。五十嵐から早期臨床実習のために病院に行っていた1年生の頃。今では、いつの間にか挨拶をしてくれる後輩ができ、部活で共にバカ騒ぎをしていた先輩が緑衣を着て引き締まった顔で病院に向かっていく姿を見て、ふと時の流れを感じるとともに、もう来年には迫ってくる「臨床の場」、というものに対し恐怖や不安にかられつつも、ここまでやって来たのだ、という達成感に似たものを感じています。

4年生になって、3年次までの授業に比べ実習の占めるウェイトが増えてきました。前期に入り、クラウンブリッジや全部床義歯をはじめ様々な実習が始まりました。今までの座学がメインの毎日、実習が中心となって回るようになり、白衣を着て実習室に向かう姿が多くなりました。最初はそれこそ意気揚々とむかっていたのですが、毎回与えられる課題を達成することは自分が想像

していた以上に大変でした。

実習が始まると、自分の得意さ、不得意さというものが分かってくるようになりました。自分は残念ながら後者で、周りの友達が自分より早く、正確なプロダクトを仕上げていく姿をみて、なぜこんなに差が開いてしまうのだろうかという焦りを感じるが多くなりました。そんな時に、顧問の小野先生に「実習というかそういうものがうまいやつは自分がやっていること、次にやらなければいけないことをしっかり理解しているやつが多いんだよ。」というお言葉をかけていただきました。その時私は、目の前の作業に必死になっていて、なぜこの作業・手順を行うのか、という理解を置いてきてしまっていたという事に気づかされました。作業をこなすだけではなく、なぜ今この作業を行うのか、この方法はどのような時に用いるのか、と考えながら実習をすることが求められているのではないかと考えるようになりました。焦りは必ず感じるものであるけれども、それを受け入



れしっかり臨んでいきたいと思ひます。

私も部活の幹部となり、主将として部に参加するようになりまひた。様々な人がいる部活を協力してまとめていく大変さや、うまくいかないことを多く感じますが、その度に助けてくれる同期や先輩、後輩に恵まれ、この部活に入ってよかつたなと感じさせられます。主将として最後の目標は、お世話になつた尊敬する先輩の最後の大会を有終の美で飾り、入部してくれた後輩にこの部活

の楽しさを伝える事です。この歯学部ニュースが手元に届く頃には少しでも目標を達成できていると嬉しいです。

教室に戻ると4年も一緒にいるクラスメイトがいて、そこには不思議な安心感があります。昨年には愉快的な編入生も増え、より賑やかになつた50期生の仲間とともに、これから立ち向かわなければならぬCBTや国試に向けて、適度に息抜きをしながらも頑張っていきたいと思ひます。



晴れて4年生

歯学科4年 加藤 哲也

恐れていた原稿依頼が来てしまいました。丁重にお断りしようかと思いましたが、原稿を執筆するという事は激動の3年生を乗り越えて無事に進級できた証なので今回は引き受けることにします。さて、3年生の頃は先輩方からしばしば「一番大変なのは3年生だよ。4年生になれば余裕ができるから」と言われてきました。この原稿は7月に執筆しているのですが、4年生になって3か月間経って思うことは「4年生の方がよっぽど大変だ」ということです。「4年生は余裕がある」このような都市伝説が脈々と受け継がれているのは、3年生に頑張ってもらいたいという先輩の愛情なのだと思うことにします。私も来年以降、後輩にはそう言います。

さて、4年生の授業は来年以降の臨床実習を意識した実習がメインとなるため、3年生までは週に一度位しか通さなかった白衣の袖にほぼ毎日袖を通してきているような気がします。大きな工具箱を抱えて実習室に向かう風景も日々の風物詩です。ここでいくつかの実習を紹介します。まずは、歯冠修復学です。いわゆるかぶせ物(クラウン)を製作します。今年からの新たな試みとしてSGD(スモールグループディスカッション)と6年生の実習参加があります。SGDでは、予め先生に提示された問題を各自考えてきて、当日実習テーブルごとに意見を出し合ってプロダクトを完成させます。最後に指名されたグループが発表します。大変ですが、非常に力が付きます。6年生の実習参加では、毎回4、5名の6年生が私達の実習のTAとして参加して下さいます。学生に近い目線からアドバイスをして下さり、本当に感謝しています。以上の2つは、来年以降も続けていくべきだと思います。次に欠損補綴学です。いわゆる入れ歯を製作する実習です。普段何気なく見ている義歯を一つ作るのに多くの手間と時間がかか

ることが身に染みてわかりました。また、実習以外の座学においても臨床実習を意識したものとなっています。先生方が「ここ特に国試に出題されやすいよ」とアドバイスをして下さる機会や、実際の国家試験の問題を解説して下さいすることも多くなったような気がします。

日常生活についてですが、4年生はみな仲が良くまとまっていると思います。先日は私の誕生祭と称して友人(男性)がおいしい中華料理とケーキ(写真参照)を作ってくれました。また、解剖実習班で今でも飲み会をすることもあり、解剖学



友人の手作り中華料理



誕生ケーキ

実習が終わって1年たった今でも班のつながりを認識でき、とても良い仲間恵まれたと思います。それと、8月にはSV（ショートビジット）を利用してタイのプリンスオブソクラ大学に行く予定です。しっかり楽しんで……いやしっかり勉強してきます。

最後に、入学当初はあれほど先のことだと思っていた臨床実習もこの原稿が歯学部ニュースに掲載される頃には1年を切っています。先生方におかれましては、どうぞ温かい目で私達4年生を見守ってください。



5年生の今

歯学科5年 那須優介

初めまして。歯学科5年の那須優介です。私が5年生になってからの学生生活について紹介させていただきます。

まず初めに、3月に日本学生支援機構による海外留学支援制度（SSSV）の留学プログラムに参加しました。私のクラスからは10名ほどが各地に派遣され、私はスウェーデンのマルメ大学に同期2名、後輩1名と共に約2週間留学させていただきました。マルメ大学はPBLを歯科大学で初めて導入したことで有名です。PBLとは、与えられた症例についてグループで討論し、自主学習によって問題を解決する学習方法で、マルメ大学では入学から卒業までPBLを軸とした教育カリキュラムが組まれています。その代わりに、驚くべきことに講義がほとんどなく、学生は自分で全て勉強する必要があるそうです。マルメの学生のこうした主体性やモチベーションの高さは非常に刺激的でした。

5年生前期のカリキュラムはこれまでと雰囲気が変わり、いよいよ後期から始まる臨床実習を意識したものとなっています。その主な内容としてPBLやポリクリ（臨床予備実習）があります。PBLでは、「目的意識をもって学ぶ」ことの重要性を実感しています。問題解決のために思考し、調べた結果を周りに説明するというプロセスを経て得た知識は、ただ講義で受け身になって得た知識よりも、定着が早く「使える」知識となります。ポリクリでは、臨床実習に上がるうえで必要な知識や手技を学びます。学生同士で行う相互実習では、実際に人の口の中で処置をすることで初めて

見えてくるものや理解できることがあり、緊張感があるものの楽しく非常に興味深いです。先生が学生にデモンストレーションをしてくださるのですが、班に男子が私と窪田くんの2名しかいないため毎回どちらかが犠牲となり、班の女子たちに口の中を覗き込まれます。ほとんどデモ係と化している私達は、おかげで張り切って歯磨きをするようになりました。（笑）

5年生になり部活を引退する人もいれば、まだまだ現役の人もいます。私はサッカー部に所属していますが、引退は6年生の夏です。今後、実習などでだんだん練習に出られなくなると思うと残念ですが、後輩たちに負けずに最後まで全力で走りぬきたいと思います。

最後に、こうした恵まれた環境を与えてくださっている周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、残り4分の1となった学生生活を過ごしていきたいです。



部活の仲間たちと（筆者右端）

5年生の今

歯学科5年 土橋 梓

吹雪で傘もともに差せないような、大嫌いな新潟の冬を4回越え、ついに私たちも5年生。ついこの前まで五十嵐のキャンパスに通ったり、人体解剖実習であくせくしていたはずなのに、いつの間にか「緑衣」を着る学年になっていました。

5年生前期の学校生活では大きく3つに分かれます。まず1つ目は、総合模型実習。これは様々な疾患が起きている上下顎の人工模型に対して、自分で治療計画を立て、治療していくという実習です。クラス全員に全く同じ顎模型を配布されますが、これが正解という計画はありません。そして丁寧に計画を進めていく人もいれば、要領よく進める人もいて、個性が出ます。途中までは楽しく実習を進められるのですが、夏休みが近づくとつれて実習時間内に治療が終えられるのかという問題に直面し、自分の計画の効率の良さと、実習の手際の良さが問われます。

2つ目は、ポリクリ（臨床予備実習）。10月から始まる臨床実習にむけて各診療科を少人数のグループで回っていく実習です。今までは模型に対して行っていた実習も、ポリクリでは学生同士で実習をします。実際に人の口で行うと思っていたように出来なかったり、痛みを感じたりと、これまで気づかなかったことにも気を配らなければなりません。最初にも述べましたが、ポリクリが始まると緑衣という、薄緑色の診療着を着ます。この緑衣を着ると患者様を治療させていただく責任感と緊張感が湧き、自然と身が引き締まります。

3つ目は、CBT・OSCE。臨床実習に出る前の共用試験です。これに合格しなければ10月から

臨床実習に出られません。5年の中で最大の山場かもしれません。国家試験結果と相関があるといわれているCBTは今年から合格ラインが上がり、より一層頑張らなければなりません。この原稿を書いている今も頭の中はCBTのことです。

このように学校生活は忙しいものの、4月にはクラスでサントピアワールドと温泉旅行に行き、歯学部運動会では幹部学年でありながら優勝をしたり、関屋浜でバーベキューや花火をして遊んだり、クラスでいろいろなイベントをしています。

学生生活も早いもので残り1年半。この時間をどのように過ごすかで自分の将来が見えてくるし、決まるような気がします。今自分が興味のある科や、あまり好きではない科もありますが、主観で決めつけず広い視野を持って臨床実習で多くのことを吸収したいと思います。そしてこのクラスで過ごせる時間も限られてきました。楽しい時間を過ごしつつ、これから始まる臨床実習も皆で乗り越えていきたいと思っています。



歯学部生の今

歯学科5年 柴 崎 慎 司

『暗記はヒューマンエラーに繋がる』

前の大学の教官から研究を行うにあたり、口酸っぱく言われ続けた言葉である。自然系学部らしい理由であるが、曖昧な記憶に頼った実験や業務は生産性をはじめ莫大な損失を生む。将来、企業や研究機関で業務を遂行する際、損失を生むような人材では困るという配慮から生まれた言葉であると考えている。何事にも言えることだが、ただ闇雲にすべてを丸暗記したところできちんと記憶することは出来ず、ちょっとした勘違いからすぐに間違いが生まれる。ラボスケールの少量であっても間違いから生じる損失は大きいことから、必要な事柄は常に理解して取り組むように気をつけるようになった。

しかし、今の歯学部生活では先述の言葉の意味を忘れていたように感じる。

歯学部で学ぶ事柄は膨大であり、丸暗記する部分も膨大であると考えていたためである。考査では暗記でも覚えられた内容も、CBTを前にしてあまり理解できていない事がわかった。そのような時、ふと講義や実習をされる先生方の指導を思い出してみると、診断や治療を行う上で必要な事

柄をきちんと理解されている事に気がついた。その中に、「ただ暗記している」事柄は無い。基礎分野や臨床分野、〇〇学といった垣根は存在しておらず、様々な分野を統合して理解し、抽出して私達に解りやすく教えてくださっている。CBTに関係なく、先生方の授業を振り返り教科書や講義資料を復習することが、必要な事柄を理解する上で一番の近道であると痛感した。CBTを突破し、10月からの臨床実習において臆することが無いよう、様々な事柄をきちんと理解していきたい。

編入生として歯学部に入學して早2年と半年近く。気がついたら半分以上も時間が経過していたことに驚きを隠せない。ということは、それだけ充実している毎日を過ごすことが出来ているのだと思う。「月日は百代の過客にして、行きかう年もまた旅人なり」という言葉の通り、月日が過ぎていくのはあっという間である。なかなか旅の道が捗らないと書かれているが、人生という道もなかなか捗らないと思う。少しでも道が捗るように、旅人のような日々を無駄にしないように、さらに充実した毎日を過ごしていきたい。

歯学部生の今

歯学科6年 高木 望

七夕が終わり、学生最後の夏がやってきました。去年の10月から始まった臨床実習も残りわずかとなり、今まで学んできたことを自分のものにするとともに日々新しいことを吸収する。私たち6年生はそんな毎日を送っています。

七夕と言えば彦星と織姫に願い事をするのが一般的ですが、6年生の願いは「国家試験合格」、これ以外ないでしょう。そして、流れ星にも願い事をすると言われています。そのルールは流れ星が消えるまでに願い事を3回言うこと。想像してみてください。夜空を見上げていたらたまたま流れ星が。お願いごとをしなければ。でも何を願いましょう。考えている暇はありません。流れ星は一瞬で消えてしまいます。焦った時、人は何を願うのでしょうか？家族の健康？将来の成功？目標の達成？平穏な日々？きっと、いつも考えている願いを口にするのだと思います。いつも考えている願い。いつでも考えている、強く叶えたいと思っている願い。そんな強い願いがある人は流れ星が消えるまでに願い事を3回言うことができるでしょう。曖昧な願いしかない人は気が付いたら流れ星が消えているでしょう。だから、流れ星が消えるまでに3回願いを言うことができたらその人の願いは叶うのです。強く思っている願いだからこそ叶えることができるのだと、私はそう思います。

そして、その願いを叶える確率を上げる方法を最近発見しました。それは口に出して言うことです。口に出して誰かに言ってしまえば、言ってしまったからにはやらなくてははいけない。もっといいことに、誰かが自分の願いを覚えていてくれて有益な情報を持ってきてくれるかもしれない。あるいは、協力してくれそうな人物を紹介してくれるかもしれない。あるいは、その人自身が協力し

てくれるかもしれない。もちろん「ふーん、そうなんだ」で終わることの方が多いと思いますが、下手な鉄砲でも数撃てばあたります。

七夕は終わってしまいましたが、夜空に流れ星を見つける日はいつくるかわかりません。突然の流れ星にお願いができるよう、「国家試験合格」を強く思いながら、口に出して同級生と励ましあいながら、これからの臨床実習、さらには国家試験勉強に励みたいと思う今日この頃です。



歯学部生の今

歯学科6年 小野喜樹

6年前、どのような大学生活をイメージして、またどのような志を持ち大学に入学してきたのか、卒業を間近に控えよく考えるようになった。夢のようなキャンパスライフ、夕方までは授業に出て夜は友達と遊び、休日は旅行に行く、そんなような生活をイメージしていた。そして、卒業時にはスーパーデンティストになると……。

今現在我々6年生は臨床実習が残り3か月で終わりを告げようとしている。臨床実習を振り返ってみると、私の夢描いた生活は訪れることはなかったが、逆にもっと充実した生活を送れたと思っている。新潟大学の臨床実習は全国の歯学部の中でも非常に恵まれていて、指導医の先生のもと実際に患者さんを担当し診療する機会をいただける。しかし、臨床実習を経験する中で、実際に患者さんを担当することは甘いことでなく非常に大変なことなのだと感じさせられた。自分が担当させて頂いている患者さんの口腔状態を良くしたいと切に願い、最終的な口腔の状態をイメージし

て治療方針を考えるのは楽しくもあるが非常に難しくて頭を抱えていたのを記憶している。知識も技術も不足する中で治療方針を考え、当日の診療の予習をし、診療後反省をすといった生活で時間が飛ばように過ぎていった。そのように自分なりの努力を重ねても診療に臨むとライターの先生方の力なしに自分一人で診療することはとても難しく無力さを感じる日々であった。しかしこのような講義や見学だけでは得ることのできない経験が学生生活の間にできたのは大きなアドバンテージだと思う。卒業後もこの実習を生かしスーパーデンティストになるためにおおいに努力していこうと考えている。

さて、このような充実した臨床実習を送るためには同期の存在も重要であった。私は、親元を離れて新潟で暮らしているため、6年間に限っては48期の同期と親よりも一緒にいたということで、同期は友達というよりもみんな親戚といった感じである。私が思うに48期は非常に大人しく静かな



臨床実習技工室にて。さて筆者はどこでしょう。

学年であったが、技工室で一緒にワイワイしてた日々はとても楽しかった。卒業にともなって、一番悲しいのはこの親戚の人たちと離れ離れになることである。48期が同級生でよかったと心から思うと同時に、今後の別々の地での親戚たちの活躍を聞くのが楽しみであったりする。

最後になったが、我々はもうすぐ卒業する。卒業まで最後の学生生活を全力で謳歌するとともに、とりあえずしっかり歯科医師になるために国家試験という目の前の強敵に全力で立ち向かっていきたい。



歯学部生の今

歯学科6年 齊藤善彦

早いもので気づけば大学卒業が半年先に迫っている。それまでに研修先を決め、臨床実習を終え、国家試験を受けなければならない。今年は休む暇がない。

入学して間もなく開催された赤塚の合宿の場で担当の先生が当時新生であった私たちに対して「人生とは自転車のようなもので勢いがなくなると安定しなくなる、だから規則正しい生活を送り続けることは大切だ」とおっしゃっていたのが今になって思い返される。

臨床実習が始まるとそれまでの日常から自転車のギアが急に2段階くらい上がるように生活リズムが変わりしばらくは慣れない日々を過ごしていたが、今では順応し臨床実習の終わりを見通すことができる段階までようやく来た。入学してからここまでとても充実した日々を送ることができて

いるのはもしかしたら休む暇をあまり与えてくれない大学のカリキュラムのお陰なのかもしれない。

ところで、日々の臨床実習において大切にしていることをこの場をお借りしてお伝えしたい。「基本を大切にすること、何事にも誠実であること、プロフェッショナルであること」当院式の日組織再建口腔外科学の小林正治教授から臨床実習生の私たちに向けていただいた言葉である。当時持っていたメモ帳に書き込んであり今でもたまに見て忘れないように心掛けている。診療にかぎらず何事も慣れるにしたがっていい加減になりがちになるので、歯科医師となってからも常にこの言葉を心に留めておきたいと思う。

冒頭で今年は忙しいということを強調したが、9月には佐渡国際トライアスロンのリレー部門



Molars

(スイム：2.0km・バイク：105km・ラン：21.1km)にチームでの参加を控えている。夏休み期間も研修施設の見学や国家試験勉強に追われて練習する時間なんてないじゃないかと思われるかもしれないが、まだ訪れたことのない佐渡で大学生活最後の夏の思い出にしたいと思い、限られた時間を見

つけながら3人で日々練習に取り組んでいる。最近、暇な日々を送るよりも適度に（適度じゃないかもしれないが…）忙しく充実した日々を送っていた方がきっといい人生が待っていると思えるようになってきた。まずはクラスの仲間とともに残り少ない大学生活を全力で駆け抜けたい。



口腔生命福祉学科生の今

口腔生命福祉学科2年 宇佐見 早 希

入学してから早1年。2年生が始まってから約3か月が過ぎました。今年の4月から旭町キャンパスに移動し、本格的に歯学部生としての生活が始まりました。ずっと興味を持っていた歯科の勉強ができ、今とても楽しいです。今回は「歯学部生の今」ということで口腔生命福祉学科の学校生活を紹介します。

初めに、授業についてです。私たちの授業は主に「PBL (Problem-Based Learning)」という形式で進んでいます。PBLとは、提示されたシナリオから自分達で問題を見つけ出し、自己学習を行い、同じグループのメンバーで討論を行いながら問題解決を行うことを通して自己解決能力を向上させるものです。この授業は講義ではなく自ら学習するので、学習したことが頭に残りやすいです。最初は医療系の知識が全くなくとても大

変でしたが、講義やPBLの時間に学習したことが積み重なり、手応えを感じられるようになり、最近はPBLの授業がとても楽しくなってきました。また、まだ歯科実習は始まっていないのですが、歯学部の施設を見学した際に素晴らしい実習設備が整っていて、今から実習するのが楽しみになりました。2年生になり、本格的に専門的な授業が増え、たくさんの知識を身につけなければいけないことに不安を感じていますが、日々の授業を大切にして2年半後立派な歯科衛生士または社会福祉士になれるように頑張りたいです。

次に、サークルについてです。私は五十嵐キャンパスのダンスサークルに所属しています。たくさんの1年生が入ってくれて、より活気溢れるサークルになりました。今は1年生に基礎を教えたり、私自身もレベルアップを図るため自主的に



ダンスの先生に習いに行ったりしています。たくさんの素晴らしい仲間と一緒に踊れ、とても楽しいです。また、今年の10月には代替し私達の学年がサークルを引っ張っていかねばいけません。先輩方が作り上げてきたこのサークルを守っていくのと同時に良い意味で変えていきたいと思っています。そのために同期とより仲良くし、お互いに協力していけたらと思います。今しか

い学校生活、勉強とサークルを両立できる人になりたいです。

2年生になり環境が大きく変わり最初は戸惑いや不安がありましたが、最近は楽しさのほうがまさるようになりました。口腔生命福祉学科は女子20人ということだととても仲が良く毎日が楽しいです。たくさんのことを学び、後悔のない楽しい学校生活を送りたいです。



歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 宮澤 帆乃花

「えーん、痛いよ～～。ああ、ちゃんと歯みがきしておけばよかったなあ、、、」6月某日。虫歯のお面をかぶりながら発したこのセリフ。歯科保健指導のための幼稚園実習が、3年生前半の学校生活の中でいちばん印象に残る出来事でした。

1年前はまだ座学が多かったはずなのに今とっては実習が増えて、改めて自分が歯学生なのだ日々感じています。超音波スケーラーを用いて相互実習をしたり、歯科麻酔やエックス線撮影の補助の実習をしたり、以前よりもさらに臨床に近い学習内容となってきた大変ではありますが、とても充実した毎日を過ごしています。冒頭で述べたように学外での実習も始まりました。後期には保健センターで保健指導を行う実習も控えており、事前学習や指導媒体の作成に取り組んでいる



ところ です。

この春から福祉の勉強も始まりました。早期援助技術演習では特別養護老人ホームや社会福祉協議会、児童相談所、障害者福祉センターで実習を行いました。福祉に関する知識はほとんどない状態で実習に挑むのは不安でしたが、反対に知識が乏しかったからこそ多くのことを現場で吸収できたのではないかと思います。福祉分野は児童や障害者、高齢者など対象者によって支援サービス等が異なること、毎年のように法律や制度の改正が行われることから、それぞれをしっかりと理解していなければなりません。難しいけれども、年金制度など身近なくみも学べるためとても面白いです。

さらに、4月から口腔12期のメンバーに新しく6人の仲間が加わりました。1人1人がとても個性豊かで、教室の賑やかさがさらにパワーアップしたように思います。25人全員で同じ目標を目指して、お互い高め合っていけたらいいなと思います。

大学生活も折り返し地点を過ぎ、そろそろ進路についても考え始めるようになりました。入学したばかりの頃は明確なビジョンが描けていなかったけれど、現場で活躍される方による講義を受ける中で将来こうなりたいという方向性が見えてきました。今は「とりあえず体験してみる」をモットーに、ボランティア活動など積極的に参加しています。気がつけばもう夏。後期になれば少しずつ病院に出る機会が増え、4年生になれば毎日の病院実習に加えて特論に就活に2つの国家試験が控えています。日を増すごとに忙しくなってきますが、1日1日を大切に後悔のない学生生活を過ごしたいと思います。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 浦澤千晶

『4年生？そんなのまだまだ先でしょ？』…大学に入学したての私は、そんなふうに考えていました。しかし、そんなことはありませんでした。あっという間に4年生になり、もうすでに夏休みを目前にしていることに、本当に驚いています。きっと、こう思っているのは私だけではない…ですよ？

4月初めに、3日間みっちりガイダンスを受けた私たちは、その翌週から4・5階の歯科外来や入院病棟に通う臨床実習の日々が始まりました。初めて外来に1日通して出た日の緊張と不安を今でも覚えています。どんな処置がなされているの



か？それにはどんな準備が必要か？アシストってどうすればよいのか？などなど、はじめはわからないことばかりでした。始まって2か月が経った今も、各科を回るごとに課題を多く感じるところですが、これまでに回った科での学びを生かしつつなんとか食らいついていっている…といったところでしょうか。もちろんまだまだ一人前には程遠いですが、先生方や歯科衛生士さん、看護師さんをはじめとした病院スタッフの皆様によるご指導のおかげで、日々一歩ずつ成長できているのではないかと思います。先生方、スタッフの皆様には大変感謝しております。臨床実習後半もご指導よろしくお願い申し上げます。

さて、上記のように金曜日の講義以外は臨床実習の毎日ですが、私たちの実習は歯科だけではありません。福祉の勉強も併せて行っている私たちには、社会福祉現場実習（正式な科目名は相談援助実習）という、もうひとつの大きな実習があります。これは、1か月間病院を離れて学外の実習先に赴き、ソーシャルワークの実際を学ぶというものです。児童相談所や就労支援事業所、社会福祉協議会、特別養護老人ホームなど実習先は様々で、数人ずつに分かれて実習をしています。私は精神に障害のある方々を対象とした就労支援事業所に行かせていただきました。病院とは全く違う世界に飛び込み、戸惑うこと、悩むことなどありましたが、そこで出会った利用者の皆さんやスタッフの方々との出会いから、貴重な学びを得ることができました。

夏休みを挟んで9月から臨床実習は再開され、他にも就職活動や特論、1月以降は資格取得のための国家試験が2つ待ち構えています。私たち4年生の闘いはまだ続きますが、27人全員で助け合いながら、みんな笑顔で卒業できればいいな、そう思っています。